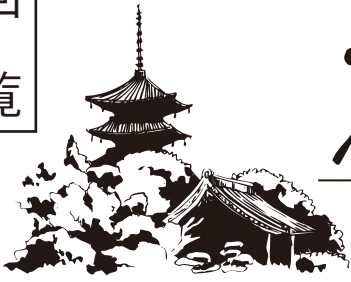


回
覧



わがまち池上

池上管内世帯人口数
(外国人住人を含む)
(令和 7 年 8 月 1 日)

・世帯数 25,503
・人口 (男) 22,544
・人口 (女) 23,372
・人口 (計) 45,916

発行: 地域力推進池上地区委員会

編集: 地域情報紙
「わがまち池上」編集委員会

事務局: 大田区池上特別出張所
〒146-0082 大田区池上1-29-6
電話 (3752) 3441 (代)



発行日 3・6・9月の25日、12月15日

私は昭和14(1939)年9月に北海道余市市で生まれ、18歳の時に大田区馬込の工場に移ってきました。その後、埼玉の草加に勤め替えをして昭和40(1965)年に結婚、子供が小学校に入学する昭和46(1971)年に池上五丁目に移ってきました。昭和50(1975)年頃ソフトボールの青少年委員を頼まれてから、町会と関わりだしました。レッスンを接する仕事を自営していましたので、昼間の時間を融通できるため町会の仕事を頼まれて、夜に仕事をしたりしていました。



池上の昔を語る(39) 鈴木 重治さんに聞く (池上五丁目在住)

上通りか左に東電を迂回するしか池上駅に行けず、皆さんが不便を感じていました。昭和59(1984)年、松原区議会議員に当時の堤方西町会栗原町会長が相談して、東電の敷地内を通れるように東電と大田区に申入れを行い、自転車と歩行者が通れるように。その後は道が舗装され便利になりました。また都立大森高校の斜め前には、かつて池上自動車教習所がありました。脇に小さな流れがあり、子ども達がザリガニ取りなどやっていました。平成9(1997)年に、教習所が森ヶ崎に移転すると、それまで練習用の車が近所の路上を走っていました。その姿を消しました。平成11(1999)年にマンション池上パークスが建設されあたりは様変わりしました。

私は大田区の青少年委員を平成2(1990)年に受けると同時に、青少年対策池上地区委員となり、その後10年程会長職を務め、地域の子ども達にバドミントンの指導をしたりして健全育成に努めました。またその後は、堤方西町会(葛餅の池田屋裏から本門寺新参道を横切る六郷用水に沿って始まり蓮沼中学手前の方から池上五丁目公園まで)の会長に平成19(2007)年に着任し、地域のお祭り、盆踊りなど町会発展に努め、昨年退任しました。



近所の池上五丁目公園は平成4(1992)年に大きく整備され、また令和4(2022)年にリニューアルされて広場と築山が特徴の利用しやすい公園になりました。この公園で盆踊りを開き、町会員が金魚すくい・ヨーヨー・かき氷・焼きそばを商い、ビンゴゲームなどの催しで賑やかでした。ラジオ体操も1週間行い、その最終日に防災訓練も行いました。

西町会では情報発信に池上地区のホームページではなく、皆さんに見やすいカラーA4版「つつし」と言う新聞を年に4回発行しています。

池上まつり 二十周年記念大会

「池上まつり二十周年記念大会」が8月24日(日)に開催されました。恒例の池上まつりは、今年20回目を迎えます。厳しい残暑のなかでしたが、趣向を凝らした特別企画などもあり、大勢の人々が終日まつりの楽しさに酔いしれました。

大森四中吹奏楽部の演奏に続き、川上実行委員長の開会宣言。鈴木区長や来賓の方々の挨拶の後、勇ましい和太鼓演奏や池上囃子と共にまつりは幕を開けました。

10時30分からはオープンングパレード。池上仲通り商店街より、吹奏楽、鼓笛隊、アースフレンズ東京Zや羽田ヴィッキーズ、池上地区11町会の方々が街なかを行進しました。

会館内では、お楽しみ抽選会。二十周年記念特別景品として自転車、2台用意されたこともあり、2階の抽選会場から階段下まで長い列が出来しばかりの間途絶えませんでした。

展示ホール内の「職人尽くし」では、表具、手描き友禅、置刺しなど見事な職人の技を披露。中でもひととき目を引いたのは、ホール中央に鎮座された生命力みなぎる聖鳥紅のオブジェ。福島在住の作家・坂本奈穂さんが古着や帯を使い制作したとのこと。

また、大森消防署など7つの団体による展示と室内遊びや池上昔写真、輪投げ、ボッチャ、さかな工作、東急電鉄のキャラクターのいる人と写真撮影にも沢山の人が詰めかけました。

室内ステージの演目は、コーラスやダンス、民族舞踊、バンド演奏や吹奏楽、ミュージカルとバラエティ豊かなものでした。また、特別企画として映像の上映もありました。池上地域の名所旧跡や町並みを、カメラを



設置した自転車を走らせながら撮影したというもの。観客は目を凝らして見入っていました。会館前のフリーマーケットや模擬店ロードは美味しいものや冷たいもの、珍しいものを求める来場者で賑わいをみせていました。野外ステージでは、35℃超の猛烈な暑さにもかかわらず、ズキズダンス、フラダンス、台湾舞踊などや、フラットおた、JMC、KNOT FREEが、パワフルなダンスや演奏をみせてくれました。

途中、お楽しみ抽選会で自転車を獲得した当選者の発表があり、目録が手渡されました。ファイナルを飾ったのは、鳳連による阿波踊り。軽快な生おはやしと、「ヤットサー、ヤットヤット...」の掛け声に合わせてあでやかに軽やかにリズムカルに踊ります。その後、ステージを下りた鳳連の踊り手の人々と、来場者やスタッフも参加して観客席のまわりをリズムに合わせて踊りました。

多くの方々が一年間準備を重ねて開催された「池上まつり二十周年記念大会」は、ファイナルの熱気さめやらぬ閉会いたしました。

池上地区 自治会連合会だより

池上地区自治会連合会は地域を盛り上げるために、様々な活動を行っています。中でも関心の高い防火・防災活動、福祉、子育て、教育、環境、産業、国際交流、まちの魅力づくり等、多様化する地域課題を解決するための活動を行っています。

そのために企業、商店、団体、NPO、区などの行政機関、地域を構成する様々な主体と連携協力することによって地域力は更に高まります。

地域はそこに住み働き学ぶ人ひとりによって構成され、支えられています。そして一人ひとりの力が結びつくことで地域力は更に強化されます。池上地



楽しさあふれる町 池上 蓮沼中学校2年 土井口晴真

池上は、楽しさあふれる町だと僕は思います。なぜなら、この町には楽しめる施設がたくさんあるからです。

たくさんある施設の中でも特に楽しめるのが天然温泉のある銭湯「桜館」だと思います。ここは、平日は昼12:00～翌日1:00まで営業しており、近くを通るといつも人が多く、賑わっ



区自治会連合会

会は、十一の町会で構成され、各町会長とは定例の町会長会議を開催し、又地域力推進委員会のメンバーに伝達し、暮らしやすい町の実現に向けて活動しています。自治会・町会

は地域に住む人なら誰でも会の趣旨に賛同して加入出来る組織であり、地域を包括した基礎的な住民組織となっています。

運営も住民が自主的にを行い、地域住民のふれあいや交流を図るため、お祭りやイベントなど様々な取り組みを行っています。このような活動を円滑に運営していくために、組織と役割を明確にした上で、会員の総意により活動し、透明な運営を行うて参ります。

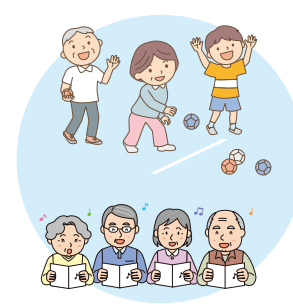
池上地区自治会連合会長
青柳博之

青少対だより

8月23日・24日にかけて小学生対象の大森地域リーダー講習会の宿泊研修を長野県にある国立信州高遠青少年自然の家で行いました。

今後の予定としては、10月19日(日)に区民スポーツまつりの一環で池上ではポッチャ交流会を池上会館を使用して行います。

11月3日(文化の日)には恒例となりました地域ふれあいコンサートを池上会館にて開催いたします。



新井宿踏切の謎



前々136号2面記事「堤方十二天つて何処？」の中で、中央八丁目の「玉子屋」さん前の歩行者専用踏切の写真を載せましたが、その名称はなんと「新井宿踏切」でした。大森寄りの小さな踏切が何故そう名付けられているのか、という疑問が生じてきます。

ちなみに、「堤方踏切」は昭和40年代の初めまでは踏切小屋があつて、踏切警手が手回しの遮断機を上げ下げする踏切でした。

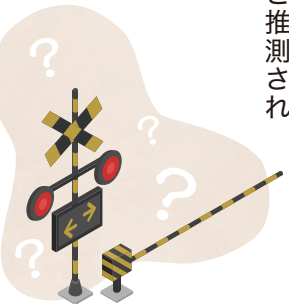
この「新井宿踏切」の「新井宿」

1年C組 文野日菜子



は、もちろん地名です。新井宿特別出張所管内の中央一丁、四丁目、山王三丁、四丁目と、そこに隣接する地域の一部を含めたのが明治22年5月の「市町村制」施行以前の旧・荏原郡新井宿村の範囲です。この新井宿村は室町時代の南北朝の頃まで大井郷に属していました。宿が付くのは古東海道の大井驛があつたからです。その驛で使役される伝馬の飼育場が馬込でした。ちなみに、新井宿の地名は荒蘭(アザミ)の草が生えていたからだとか、荒磯の意だとも考えられています。現在の太田神社の付近まで大井郷だったという説もあります。

しかし、堤方村が新井宿村に隣接しているとはいえ、「玉子屋」さん前の踏切に「新井宿」の名称が冠せられるのは解せません。実は、明治22年の池上村(のち町)が成立したとき、大字堤方の小字として現在の池上五丁目あたりに突然「新井」が登場してきます。理由はわかりませんが、新井宿の西側の意です。そこには新井宿への憧憬があつたものと思われまふ。『萬葉集』巻第十二「草陰の荒蘭の崎の笠島を見つつ君が山道越ゆるむ」(歌謡番号3192)の歌の荒蘭の崎の所在地には諸説がありまふ。すが、わが大田区も有力です。恐らく貴船坂から佐伯山にかけての手前の山道から海のほうを眺めた光景ではなかつたか、と推測されます。



俳壇

市野倉南町会長
さんべい 勝司

いち早く
風に乗りけり 祭太鼓

胸躍る
寝ても覚めても 夏祭り

大和路に
岩に隠れて 紫蘭咲く

紫蘭咲く
香り漂ふ 山寺に

入学時
おもいかばんに 夢詰めて

角帽で
赤門くぐる 入学式



編集後記

今夏は例年を上回る酷暑が続きましたが、三十年ぶりにワクワクしながら花火大会に足を運びました。しかし、美しさと迫力は途中から勢いが失せ、打ち上げ事故によって残念ながら中止を余儀なくされてしまいました。皆さんもご存知の横浜の花火大会です。

ところで、大田区では今年区内の52の公園を時間を決めて花火のために開放(8月1日～17日)。大勢の人が利用しました。もちろん手持ち花火のみ。きっと公園内は連日、花火を楽しむ人たちの笑顔や歓声があふれていたのでは。思いっきり花火ができた子どもたちは、夏の思い出の一つとしてすっかり胸に刻んだことでしょう。こちらは大成功だったようです。(京)

